

「農地まわりのとんぼ調査」ご協力をお願い

皆さんは、子どもの頃に田んぼで赤とんぼを捕まえていましたか？地域で見かけるとんぼの種類や数は昔と比べて変わっていませんか？

今年度は、資源向上活動（共同）の生きもの調査【活動番号39】として「農地まわりのとんぼ調査」の実施をご提案します。

田んぼ周辺で飛び交うとんぼに目を向けると、身近な自然や生きもの豊かさとその変化がきっと感じられます。集落内の子どもや住民の皆さんとともに、世代間の知恵や体験の継承、意見交換など、地域コミュニティの交流の機会として実施してみてください。



調査・報告の方法 **(調査の推奨時期：7月中旬～9月下旬)**

① 調査圃場の選定

集落内にある田んぼから、調査を行う田んぼを5箇所以上選んでください。

- ・できるだけ様々な環境（山の近く・川の近く・家の近く など）の田んぼを選んでください。
- ・調査は一人で行わず、複数の人と一緒に取り組んでください。

② 見つけられるとんぼの数を予想

畦を一周歩いて見つけられる「とんぼの数」を予想してください。

- ・過去の経験などをみんなで話し合いながら、とんぼの色ごとに予想してみましょう。



③ 田んぼの周りを歩いてとんぼの数を記録

実際に畦を一周歩いて見つけた「とんぼの数」を記録してください。

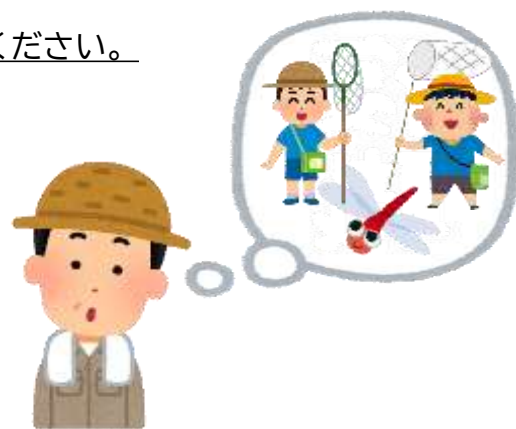
- ・調査時間は一つの田んぼあたり10～15分程度です。
- ・とんぼの色ごとにそれぞれ記録してください。

④ 感想や体験談を記入

調査中に感じた事や過去の体験談などを記入してください。

⑤ 提出

所定の提出用封筒に調査票を全て入れ、**9月30日(金)までに**、農村環境課または各支所までご提出ください。



この調査についてのお問い合わせ

丹波篠山市 環境みらい部 農村環境課 (本庁舎2階26番窓口) 担当：山口、野口、岡

TEL：079-552-5013 FAX：079-552-0619 MAIL：kankyo_div@city.sasayama.hyogo.jp

調査対象のとんぼ

日本全国には約200種類ものとんぼがいるといわれています。丹波篠山市にもたくさんの種類のとんぼが生息しています。そこで今回は種類ではなく、色別に「赤いとんぼ」、「青い/緑のとんぼ」、「黒いとんぼ」、「その他のとんぼ」に分けて探してみてください。正確に把握することがこの調査の目的ではありません。皆さんでワイワイと楽しく取り組みましょう。

赤いとんぼ

アキアカネ・ハッチョウトンボ など

見つかる田んぼ

○平地・◎人里近く・◎山に近い水辺・◎山すそ

特徴・農地まわりの環境との関わり

アキアカネは、季節によって過ごす場所を変化させるとんぼです。暑い夏の時期は、山などの涼しい場所で過ごし、秋ごろになると人里近くに戻ってきます。



アキアカネ

はねの色は透明

お腹は赤色や橙色

お腹は赤色や橙色

はねの色は透明
付け根はやや橙色



(写真提供：大塚剛二さん)

ハッチョウトンボ

青い/緑のとんぼ

シオカラトンボ・ギンヤンマ など

見つかる田んぼ

◎平地・◎人里近く・◎山に近い水辺・◎山すそ

特徴・農地まわりの環境との関わり

シオカラトンボは、田んぼや周囲に草が生えた明るい場所によく見つかります。オスはきれいな青色が特徴的で、ヤゴのまま冬を越すため、冬場でも水がたまった環境が必要なとんぼです。



シオカラトンボ

大人のオスは
きれいな水色

はねの色は透明

あざやかな緑色

はねの色は透明



ギンヤンマ

「害虫を食べてくれる“とんぼ”」

とんぼは、農繁期に田んぼや畑などにいるウンカやカメムシなどの害虫を食べることから「益虫」といわれています。ヤゴは、田んぼや水路などで暮らし、虫などを食べながら成長します。夏の夜に水辺の草などに登り、とんぼへと姿を変え、飛び立ちます（羽化）。



虫を捕食するシオカラトンボ



ヤゴ(とんぼの幼虫)

見つかる田んぼ

◎平地・◎人里近く・◎山に近い水辺・△山すそ

特徴・農地まわりの環境との関わり

ハグロトンボは、4枚の真っ黒の羽が特徴で、きれいな水や水草がある水路が近くにある田んぼで見つかります。

オニヤンマは、最大で10センチを超える日本で最も大きいとんぼです。流れの緩やかな水路や川が近くにある田んぼで見つかります。



ハグロトンボ

お腹が細い

はねの色は黒色



オニヤンマ

はねの色は透明

黄色と黒色の虎模様

こんなとんぼも見つかるかも (その他のとんぼ)



ガンバイトンボ

白い花びらのような足先
○平地・◎人里近く・◎丘陵
準絶滅危惧種(国)、Bランク(県)



ミヤマカワトンボ

はねの色は茶色
◎丘陵・◎山すそ



チョウトンボ

はねの色は黒色や藍色
○人里近く・◎丘陵

《赤とんぼが減っている？》

昔は当たり前に見られた赤とんぼは、近年全国的に数を減らしています。童謡「赤蜻蛉(とんぼ)」の作詞者、三木露風の出身地 たつの市でも、その数はかなり減り、ほとんど見られなくなっていると言われています。

赤とんぼが減った原因の一つと言われているのが、イネに用いられる農薬です。一部の農薬に含まれる成分が赤とんぼの生息に影響を与えていると考えられています。これ以外にも水田の中干し時期の変化なども原因の一つと言われています。

圃場内の赤とんぼを調べることで、水田環境の変化や周辺の土地利用の変化を把握することにつながります。



令和3年度「農地まわりの鳥調査」結果のご報告

昨年度は「農地まわりの鳥調査」の実施をご提案させていただき、市の鳥「ツバメ(巢)」 「カワセミ」、県の鳥「コウノトリ」、国の鳥「キジ」の計4種類の鳥について、86組織153集落1,545人から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

調査結果の概要・今後の取り組み

ツバメは、農村部を中心に約1,000件の報告があり、巣作りに適した日本家屋や納屋が数多く残っており、市民に受け入れられていることが分かりました。

カワセミは、水辺を中心に市内の広い範囲から181件の報告があり、カワセミの餌となる小魚がたくさんすむ豊かな水辺が残っていることが分かりました。

調査結果は、貴重な分布情報として環境配慮の際の検討資料として役立てるほか、保全活動の取り組み推進に役立てていきます。



- ツバメ(巢)
- カワセミ
- コウノトリ
- キジ

《市の鳥ツバメ・カワセミを守るひと工夫 エコアップ》

市の鳥「ツバメ」と「カワセミ」を守る取り組みは、個人でも地域でも簡単に始められます。

丹波篠山市では、日常の暮らしや普段の作業に「自然に優しいひと工夫（エコアップ）」を加える活動を全面的にバックアップ。活動に必要な物品の支給や貸し出しを行っています。

ツバメは、木材などを軒先などに設置することで、巣をつくりやすくなります。木材がフン受けの代わりにもなるので、生活への影響は最小限ですみます。

カワセミは、水辺の小枝や杭、石などに止まり、エサとなる水中の小魚などを探します。水辺に止まり木や石を設置することでエサの魚を捕るための待機場所とすることができます。



⇒12個のエコアップ活動の詳細はこちら



左：巢台 右：巢台に作られたツバメの巣



近くに落ちている木や石を設置するだけでOK